

西洋夜話

卷一

230.1

I625
W

明治六年癸酉五月刻成

寧靜學人著

西洋夜



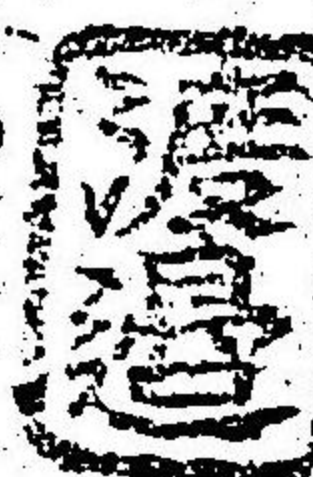
養愚堂梓

東京書肆

翰林堂

212750

附言



此一冊を波斯一國の物語に止せしむ
 太古より今日の形勢に至るまで抑波斯
 を天竺國の西小隣りて都恩格の東小
 在り昔より琴瑟詩歌其外風俗道行
 ろれり頗る古雅ある國なりは風俗話
 少くねど巻中よ記しを所を残忍ら
 事多くし殺風景なりを去

西洋夜 養愚堂梓 翰林堂 東京書肆

元来僅一國の事よ長譚成りたるま意な
 り終は只國勢変革の大畧を記すの
 事にして細事小渉らざるの故あり看者
 遺漏を咎しらすと勿き

明治六年四月既望記于觀海樓上

源彝仲甫



西洋夜話茅四集目錄

○波斯國王設苗士巴比倫を攻取ら
 事

附 設留士横死の事

○カムビシス王患虐の事

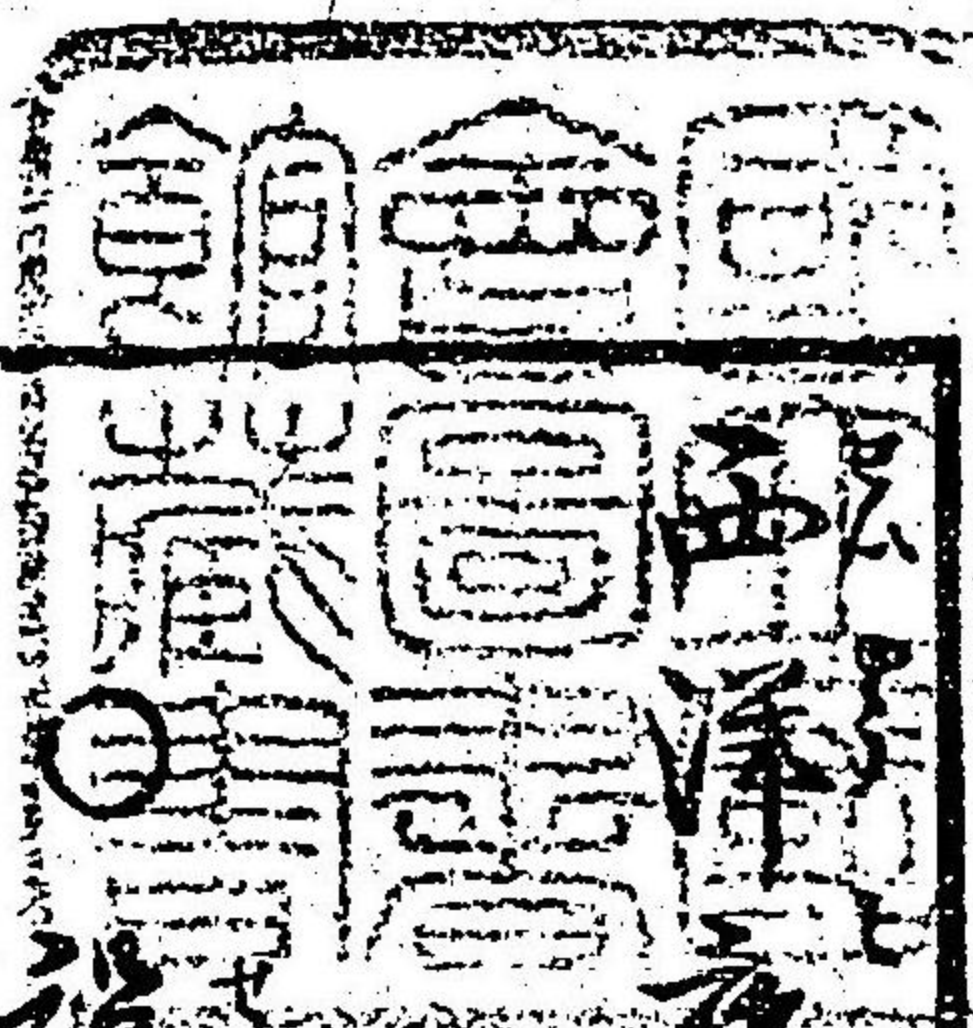
附 埃及國人と戦争の事

○日耳日士王希臘と討つ事

附 日耳日士弑す事

○波斯國後代盛衰の事
附 同國近來の形勢の事

西洋夜話第四集目録畢



西洋夜話第四集

東京

宇靜学人彝著

留士巴比倫と攻取らる事

附 留士横死の事

抑 世界開闢より初て亞西利とアム國

建て 大國となりし事と其國チダリス河と

出せしことしして 其國チダリス河と

イギリスハレトス河との間ホリて 今都

兒格國小屬より所なり氣候暖よ土地
豊饒ありよ民口の忽小繁殖
真小不思議あり事ありて後世よ想像
ても驚く計あり然も其より近不近
國小人種廣まりて此處波濤小集り
て大あり者を都會となり小なり者
部邑となり後より進る田畑より南
國となりても多かりと
亞西利國

の盛なり時を是等の諸國と合せし
其藩属となり亞西利國王久しと土地
人民統轄しりると斯て星霜と経
るより其屬國なり波斯と
より大國となり後より亞西利國
滅せしのみうは遠近の國々討伐
へて悉く屬國とあり其威勢盛
近國より更なり遠國小至るまで

も恐きぬ者なり。つらつらと押し出の
波斯國の由来と娶く尋ねり。其若
大洪水と適ききら諾亞の長子小設莫
とつる者なり。又其長子エラムとつる
者の子孫より出たり。國ありを以て大
古く此國とエラミイトとつひつらと
なり。然るに其頃より如何なる事の
つらつら。今の世に知らぬ人あられど大

洪水の後凡一千七百年も過きて後
士より勇將あり。波斯國王の位小昇
よりつる一説は此王を智仁勇を
並て頗る賢明の君なりとつる。然るに
格別の美事あり。事も言傳さるは只
剛勇にして殺戮を好む。人より魚
王出てつる波斯國を四方小軍を出
して隣國の土地を攻取りメヂヤ、パル

手ヤ、メソポタミア、アルメニア、西利可
 難ありと、しへり國と滅し又亞刺比の
 一部と由取りて皆其屬國とふし大不
 國と擴りあり是等の戦は設留士王の
 軍功を數多の事と中より名高き大功
 を巴比羅屋國の都巴比倫と攻取りし
 ともありその巴比倫と都を周
 圍に大なる土牆と築き最堅固の城

郭として連ゆらき成崩れたり又
 りり登るととありねと此城と攻取
 らんを素より容易き事なり
 設留士の奇妙なる策畧は設留士は地理
 に精きを以てたり抑巴比倫とテ小都
 を中央ホイヤヘレイトとテ大河の
 流りり設留士ら其の心附て都の外小
 大なる塹と掘て河の流と引き郭由ら

西洋志話 四集 四
 石川氏藏板

河底までも乾燥もんとて頻に壑を深
し念落成て水の燥と候長きりりり
或夜巴比羅臣國王は大火祝宴と設け
郭外小敵あらざるも思ふに警固の兵隊
も都下の諸民と皆酒食小飽き現とぬ
うし折し居まらば波斯人の方小
と切は大河の水と一時小郭内不突入

と等しく彼留士と波斯の軍兵と率ひ
て城小攻入し小いさゝか水も廻らさる
處りりたれを難あく數萬の軍兵出牆
て踏て直小王宮小馳向ひくまは王宮
警固の兵隊も大に驚き立駭あし不意
と討まき如何とも為方なく無残小討
取まき國王ベルシヤガルも高貴人と
共小酒宴の席小在て兵隊ら火死と散

西洋史話 四巻 五二 吉川義載 反

戦ふ音と聞き又殺さるる人の叫
聲は一塵の人の残り残るる道
討取らば席上の飲酒を血汐ちりと混りて
器を漂と其景次も實も眼も當らば
國王も斯の体も是は来くの残忍を
云の更あり巴比倫の都を敵も奪取は
夫より巴比羅尼國を波斯國の一部と

あり永く其管轄と受けらるるや
其頃北高海の北東の方にてスギチヤ
と執強き國より設留士王を巴比羅
尼國と亡しけり又その國を攻取ん
と波斯國も出陣しけりスギチヤ國
の女王ト三リスとリ者大軍兵隊
募集し波斯人と大会戦しけり波斯
新國王設留士と此戦も打敗る虞と

西遊記 卷之八 天竺國 西天取經 孫悟空 三打白骨精

りけきど女王の子も赤乱軍の中よ討
 取きおれも女王を大ふらむ戦恨も其
 仇討なりも人よ余け残酷ら殺
 一のゆりも抑留士を己ら武勇
 を恃て屢無名の軍戦起し外の國を攻
 取りおれも終は女王を討敗され
 非業の死に遠し道理あり

○カムビシス王悪虐の事

附埃及人と戦争の事

後留士王スキチヤ國にて殺さきてよ
 り其子カムビシス父の位と嗣て彼
 國王となりけりふは王の悪虐無道
 らも其父より甚しき殊も飲酒も耽
 りて國事お心と止されら忠義の臣
 レキサスベとら人王と諫めて曰
 ら中下期の如く飲酒も耽りけり

折角健康あり 御身小病と生じ必
 以虚弱おなり 命少く謹し
 きぬらな 下高民の幸ありと云せ
 果にカムビシス 酒と持来しと命て
 大盃五六杯 牛の如く飲盡して
 レキサスペ 向ひ云々 中今予
 飲き酒を 予眼と眩しん 予手以擺
 りて 予試お 予是は 見んと 予矢を

取寄せブレキサスペの子と呼出 饗
 堂の彼方の隅 小立居と命し 小兒
 何心なく 王命の候 立居り 無
 残や 王弓矢 引控 稚童は 祖て 矢を
 故は 的と外 胸板 小射貫心臓 小
 中うり 命は 何うは 以て たち 身込
 と 倒き 果し 命り 如何 猛怒の 命れ
 ちと 現在 親お 見せ 命し 科あき 小

白 年 名 言 口 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

兇と残忍思は射殺し心底の怨
 さ実小人面歎心なり今想さく象を
 筆執る心も端なり然と實小なり昔
 語りぬれ記ごらも本意あり且又斯
 ら悪業の後戒となりんと必定あれ
 は心よ記置んも却て善事ある愈し
 斯く彼悪王カムビスを其後軍と出
 埃及國と攻めらるるなりし武

日埃及の一府と國し將狡猾き策を以て
 府を攻取らるるなり抑其頃埃及國の
 風俗は神聖物と思ひ大に信
 心して神の如く拝まきり斯ら白癡ら
 風俗ありしを以てカムビスを
 不図思つた國中の大猫と残り驅集
 て先陣に出さるは埃及人を兼て
 信心し物なれば射殺しを

九
 石川氏藏

波斯人得きりと馳て犬猫と追追し
 走れ一人弓と引く者なりぬ
 波斯の軍兵と吾方らと進
 入る其勢破竹の如くしと容易く
 府と奪取りしと喚及周しとアビスと
 名けゆる大犬一匹の其家門の者
 走れは誰りて敵討とくさ人由な
 大猫を念警と吠つ叫はつ先陣小
 大猫を念警と吠つ叫はつ先陣小

らまじ本尊とて尊敬ひつらよカム
 ビシスとて山犬と殺して其肉と兵隊
 の殺ふ與へゆ其故程とあくカムビ
 シスと如何なる過しや己の持ゆる劍
 よて死しゆりしは喚及人々彼靈黙
 の罰ありとて大に喜ひつらよ
 實に愚なる話なり

○日耳日士王希臘國と討つ事

西澤夜話
 石川氏藏
 廿
 石川氏藏板

附 日平日士王弒せらるる事

其故波斯國王太留士トリスり者なり
 是も悪虐無道の人なり此王の亦或時
 スキチヤ國と征伐せんトリスと軍兵戎募
 一人の子と持たら貧しき老人
 其子と三人軍兵の數小加
 其色な老人王小湯見戎願て懇懇小
 言上事とや野原と最平老衰し

何一も稼くと叶ぬ身なれる三人の
 子戎三人あり軍小召連下きらは野
 原も餓死する外小為方あり者小
 て實に必死の難況何卒せめく一人を
 殘し置て賜とらへしと只管小願とらる
 小太留士王も色と妻一聲と勵して
 答らるやう愛小尤あり然らば三人共
 小汝の許小殘し置て遣さんとらひも

果さる人小命て三人の壯者と殺さ
め其死骸と波老人小與らると其後
又太留士王希臘國と討たんと頻小軍
備と備りきと未調くは病小冒さ
れあへなく阻りきは其子日耳日士位
小即き夫より愈希臘征伐小出らる小
其軍勢陸軍と二百万人海軍と五十万
人ありとと斯る大軍と集らる王を

わら其國富て且強きは勿論あり其頃
小無双の大國とて都ペルセポリス
を開闢以來未曾有の大都會あり
日耳日士王を弑せんと他國と攻
取り其國と擴めん欲を寧小臨限も
き貪欲なり斯て日耳日士王を波大軍
と率て希臘國小着陣しりきは飛鳥も
為ら計の勢小愈慢心しき折柄兵船

と真直小築切らんとせし船路の前
にアトスとり山つりて遠くは
山に書を贈りて路前と立拂へと命
まゝと如何の威勢を強しと山
の動く可き中よりあつねる山を
一歩も偏ら以然きと日
平日士をさきまて艦以
て陸軍城希臘に進む時へレ
スポントとつり海城渡さん
と船を集め

橋と架し波風暴し繋ぎし船を忽
ち散々流るる日平日士大に怒
り矢敵あり海をり杖と以て海を
打しありとつり斯も烈しき勢小
て希臘國小攻入るる希臘人を
遣も敵しつりつり波期小降参し
多きとスパルタアテンスと
二城を以て大に奮戦しつり
後つり尤守兵を至て少

人教りて援兵を呼とも討りぬと波
斯人よりる勇来遙小勝りおきは日耳
目士をテルモピラとて海と山との間
なる隘路小軍兵と廻りてれより攻
入らんとせよスパルタ王レオニダ
スとりよ者僅六千人の兵と率てらる
成防く小攻兵を強て此道は破り入ら
んとりて討敷りて一萬七千人の軍

兵を討取きけりレオニダスに最早波
斯人此道は攻来りてもとりて其
身はテルモピラの隘路小僅二百人の
兵隊帥て止りて其餘を一同退陣し
めしよ豈圖らんや俄に波斯の大軍襲
来りて三百人の軍兵と蹙りて僅小一
人の歩卒スパルタ小道を帰りて其事
實を報せりとも

去程ハ日耳日士ヲ希臘國ハ攻入テ數
 度の大勝ヲ得ルモ其武威之ハ保
 以シテ海軍の船々々サラミスとい
 所々々打破ラレ陸軍々プラテアとい
 ぶ所々々大敗シクモは再ハ攻入ルベ
 き平股も盡テ詮方なく遁ク歸ラんと
 せしレスポントの海ハ到キと
 船の用意もなかりりきは餘議なく小

き船と繋キ船橋トシテ前
 秋も打キ返報也再ハ船橋
 と破リクモは幸シク本國波斯
 其後程もかく國の守ヲ弒セ
 其子アルタゼ
 ルゼス王位ハ即キ是々西洋紀元
 前四百六十五年の事ナリト云叔日耳
 日士王一代の物語々傲慢ナリ者金の

戒なり彼既小大國の王とありあり
欲心飽足にして他國と討ら終は其
身と滅が一數百餘人の兵士とも失ひ
きり君家小居て一國が治め庶民と惠
まは國中の幸福にして其身の榮華を
此上もなきなり

○波斯國古今盛衰の事

附 近來の形勢の事

却説波斯國の最盛なりは日耳日士
の時ありし王殂てより凡二百年
と經て西洋紀元前之百二十年小至て
マセードン國小亞歷山德大王とて名
高き武勇の王なり波斯國小討入る
るなり平時波斯國王を太留士等之世
と云者ありしは亞歷山德と戦ひ打敗
て已ら下下の二人の者小捕へらき黃

金鏈と以て傳らば蓋車に乗らむ
此二人の者ら時お来して太田士王と
弒し國を横領せんとの悪計なり
亞歷山徳お不意と襲くれ為方おぐ
て逃げんとする時馬車の上より太田
士王お稍と投付て弒しあり
波斯國獨立するに終るに
の屬國ありしバルチヤと
國なり

今の及て此國の屬國となり頃て
五百年程の間バルチヤ國王の管轄
受し西洋紀元後二百二十年お至り
波斯人アルタゼレスと
自立て王と稱し其子孫數代相續し
て王位お在り
其中お最も名高く
六百年頃の人ありし
或時羅瑪人と

西遊記 卷之四 石川氏精

戦ひて亜細亞洲中へ行く。羅瑪國の領地を乱妨し、其地の王も又テロスとスとし、小者有り、非道の悪漢あり。已ら實父と打弑し、わきり然るに斯ら悪虐無道の者々、天罰以て免る。の理を弁れ、禍忽ち其身小報ひ来りて其子シスロースとし、小者の奸悪を親小者らに父の位を奪ひ、其眼前あり。己

兄弟と一人残らば殺戮し、後小人命を父を地牢へ投入せ、一時弑せ、其後遷微く、矢根を以て突刺し、長く苦痛をさせ、其は故王テロス。口へス、忿怒小堪され、身動うねる。為方なく、切齒を齧りて果たり、とて實小殘忍し、ん、かな美話あり。親を弑し、きる者も又子小弑し、由道理ありて

西遊記 卷之四 石川氏精 十八 石川氏精

遂に無道と子孫に傳へ萬民に染る
 小至らん此弊害は無道の國に
 て其教正らざらばなり我國に
 了は古性今來斯る例と聞け實に
 事なれは讀者皇國の聖恩を忘る可
 うに後夫をさしてあき西洋紀元
 六百二十年波斯國の王位に即
 ききり者といスチゲルトとら
 ひりり此王の時亞

刺比の一國に沙羅仙國とて
 勇て兵と好めり國に波斯國に
 襲來りくはを攻取し時の戦に
 波斯國王イスチゲルトに戦死
 され夫より波斯國に沙羅仙國
 の管下となりつる所は鎮臺
 羅仙國よりバグダットより河
 の邊に置きりは所をチグリ
 スと云ふ河の邊にして六百七
 十二年沙羅仙人の建た

る名高き都府より一時盛りて府下の民口二百萬人不至り美觀壯麗あり建家も多うり今衰微て昔の景況更ふなく大家を崩跡のみ多し去程小沙羅仙國を今より六百十五年以前小韃靼國を壓服らるるは隨て波斯人も久しく韃靼の管轄と受り其故波斯國より別小王と立たり其

初代の王を沙羅仙人の子孫と名とイスメールとより無理と以て王位を取らる人なれとも二十三年の間波斯國を治りまより歴代の王の中より大功ありしをアバステより西洋曆の一千五百八十九年小王位小即き都児格人と戦ひて教度の大勝を得又葡萄牙人と戦ひて亞細亞洲小

葡萄牙の領地を奪ひて其地小居を
葡萄牙人を追攘したり此王の戦功
尚多きと善政と施し國民と受惠
みも其より後の王よりヒュスセン
より人なり此王の即位と西洋曆の
六百九十四年なり不幸にして國
中上下も多數の災難小逢ひ終小
は詮方あく地人小位と奪り是より然

此王未位と退りし時波斯國の
都イスタンとリ所の市中と徒歩
り小都下の人民を將小王位は地人
小讓らんとり哀憐て悉く王の周
圍小寄集ひ涙と流し號泣ありとい
ふ一事と仁心ある王と格別
小下民と恤多しと知る處其時王市
民小語て曰くや予位と辭と雖

新王マモード直位小即愈々色
 は汝等と愛をらと予小如はも國民
 と制御一敵國我討伐を方畧を必以
 予小優を一予を既小政治小倦て王
 位小在る不堪ぐ一と程なく王冠
 脱て諸民小別と告ぐるを其後一
 子七百之十年小至て高里漢とり者
 波斯國王となり自ら上王と稱を有名

剛勇一々猛悪の王なり一在位十
 七年小一帷内小弒すを由り支すり
 國中大乱となり英雄競起りて屢戦争
 有り王位小昇りきる者数多なり百姓
 久しく塗炭小苦し一遠小一豪傑
 出て内乱と定り國民を保トきり當時
 の王を善人として古来の波斯王の比ふ
 可くはとらふ

色香艶一富きら者々美觀あり宮殿
 小傾之貧しき者々塗家不恒り然
 國の大々昔の日耳日士王の時
 たりも小一とり太古の國
 日輪を捧と其後偶像と尊いきんと
 子餘年以來の法教と回回教なり

西洋夜話第四集 終



石川氏藏版新出書目

明治六年四月改

一 西洋夜話 第三集 第四集

一 海外雜誌 初集 卷二 卷三 卷四

一 西洋算法 卷三

一 全三冊

東京書肆 翰林堂 京橋金六町 福田屋幸七發兌

